

1. 評価結果概要表

作成日 平成 22年 3月13日

【評価実施概要】

事業所番号	3490900051		
法人名	有限会社 トツツ		
事業所名	グループホーム 笑顔 くい		
所在地 (電話番号)	三原市久井町下津1614-1		
評価機関名	特定非営利活動法人 NPOインタッチサービス広島		
所在地	広島市東区福田1丁目167番地		
訪問調査日	平成22年3月12日	評価確定日	平成22年3月17日

【情報提供票より】(H22年3月2日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 20年 4月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤	14 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 14.35

(2) 建物概要

建物形態	併設	新築
建物構造	木造 造り	
	2 階建ての	1, 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	光熱25,000 円
入居申し込み金	有(50,000円)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(180,000 円)	有りの場合 償却の有無	3年償却
食材料費	朝食	400 円	昼食 550 円
	夕食	550 円	おやつ 円

(4) 利用者の概要

利用者人数	15 名	男性	5 名	女性	10 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名		
要介護3	5 名	要介護4	4 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.66 歳	最低	74 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	三原市立くい市民病院、中山歯科
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

トツツ系のグループホームであり、同一建物には、ディサービス、小規模多機能事業所が併設されている。開設2年目、「地域に根ざした」「暖かく、やさしさ溢れるホーム」づくりが目指されている。「笑顔を大切に、納得してもらうまで待つケア・・・」と穏やかな雰囲気づくりが実践されている。地域との相互交流、暖かい近所付き合いも深まっており、利用者はゆったりと過ごされている。百歳の利用者からハルピンの話を聞くことも出来た。緑豊かな田園の中、近くには、小学校、保育所、コンビニ、スーパーなど恵まれた環境にあり、地域に見守られながら、穏やかに暮らすことができるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の指摘点は①ご意見箱の設置、②介護計画策定時ご家族との話し合いと確認であった。①については改善済み。②については、事後ながらご家族への説明がなされ了解も得られたが、現在のやり方にはやや問題があり、更に基本的な改善を望みたい。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価や外部評価を通じて、職員一人ひとりが、自分の仕事を冷静に見直す機会になっている。今回の自己評価も、職員の考えや意見を聞いた上でまとめた。</p>
重点項目 ②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2ヶ月に1回開催されている。市職員、スーパー社長、民生委員、認知症家族の会代表、区長、地域包括センター職員、警察官など幅広く参加してもらっている。ホームの状況報告や災害時の地域支援体制などが話しあわれている。いろいろ意見をもらいながら、サービス向上に活かし、効果をあげている。</p>
重点項目 ③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>利用者の暮らしぶりについては、面会時の説明の他、手づくりで温もりのある「ホーム新聞」を発行し喜ばれている。健康状況については、必要に応じて、電話・メールを使い分け、的確に連絡している。ご意見などは、出来るだけ面会時に直接聞くようにしている。意見などがあつた場合は、ルールに従い、管理者に報告し、出来るものは即刻運営に反映させている。ただし、苦情申し立て可能第三者機関が重要事項説明書に記載されていない、連絡先の明記と徹底を望みたい。</p>
重点項目 ④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域行事への参加のほか、保育園児との触れ合い、ボランティアの来訪、「ホーム祭り」への地域の方々の参加など、積極的に相互交流し、付き合いを深めている。また、散歩・買い物時の触れ合いや挨拶を大切にし、スーパー店長の手助けを受けるなど、暖かい近所付き合いが行なわれている。</p>

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム独自の理念「ひだまりのような暖かさと、ほのぼのとしたやさしさ溢れる空間づくりを目指します」が設定されている。地域の中でその人らしく、ゆったりと暮らせるケア活動が目指されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	居間の見やすいところに掲示してある。ミーティングなど、機会あるごとに徹底され、共有化されており、職員は協力、工夫して理念実現に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域行事への参加の他、保育園児との触れ合い、ボランティア来訪、「ホーム秋祭り」への地域の方々の参加など積極的に相互交流し、付き合いを深めている。また、散歩・買物時の触れ合いや挨拶を大切に、スーパー店長の手助けを受けるなど、暖かい近所付き合いが行なわれている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義はよく理解されている。自己評価や外部評価を通じて、職員一人ひとりが、自分の仕事を冷静に見直す機会になっている。今回の評価も、職員の考えや、意見を聞いた上で、まとめられた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催されている。市職員、スーパー社長、民生委員、認知症家族の会、区長、包括センター職員、警察など幅広く参加してもらっている。ホームの状況報告や災害時の地域支援体制などが話し合われている。いろいろ意見をもらいながら、サービス向上に活かし効果をあげている。		

NPOインタッチサービス広島

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当職員には、可能な限り運営推進会議に参加してもらっている。また、届出や疑問点の確認のため出来るだけ窓口に出かけ、つながり強化に努めている。市の主催する会議や研修には参加している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりについては、面会時の説明のほか、手づくりで温もりのある「ホーム新聞」を発行し、喜ばれている。健康状況については、必要に応じて、電話・メールを使い分け、的確に連絡している。また、年1回の秋祭りには、全家族に参加してもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱も設置しているが、苦情や意見は、出来るだけ面会時に直接聞くようにしている。意見などあった場合は、ルールに従い、管理者に報告し、出来るものは即刻運営に反映させている。ただし、重要事項説明書に苦情申し立て可能第三者機関が明記されていない。	○	重要事項説明書に苦情申し立て可能な第三者機関(名前、電話番号)を明記するとともに、ご家族への徹底を望みたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は最小限に抑えているが、これまで職員が変わることでマイナスの影響を感じたことはない。ベテラン職員が充分説明することで対応している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時に研修を行い、その後も出来るだけ研修には参加させている。また、必要な内部勉強会も随時行なわれている。	○	職員のさらなるレベルアップのため、経験に応じた育成の体系化と「年間計画」に織り込むことで、職員が研修を受け易い仕組みづくりを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ内3事業所で、年4回全体会議(勉強会)を開催している。また、地域の同業者で開かれる、認知症勉強会にも参加しサービス向上につなげている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームの雰囲気に馴染めるよう、入居時本人やご家族と充分話し合い事前見学など、工夫している。しかし、実際は急な入居が多く、入居後状況に応じ、ご家族に電話してもらったり、ベテラン職員が集中的に付き添うなどの対応が行なわれている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人を介護される一方の立場におかず、人生の先輩として敬い、生活の知恵をさずかりながら、共に喜び共に過ごす、出来ることは一緒にやるなど、支えあう関係づくりを心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の気持ちを大切に、言葉やそぶりに注意し、把握につとめている。その上で、できる限り、本人の思いに沿った生活が出来るよう取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の一人ひとりが、自分らしく、より良く暮らせるケアのあり方について、本人、ご家族の事前情報を下に、関係する職員で話し合っって策定されている。ただし、利用者の入退居が多かったこともあり、計画策定が遅れ、後でご家族に説明し了解を得たケースも見受けられた。	○	本人、ご家族と必要な関係者で話し合い、入居時遅滞なく介護計画を策定し、ご家族の了解も得た上で、必要な介護が始められるよう望みたい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しと健康状況などの急激な変化が生じた場合の見直しは、関係者で話し合い策定されているが、ご家族等への十分な説明が行われていないケースがあった。	○	計画見直しのための、課題進捗フォロー(モニタリング)の仕組みづくりとご家族への十分な説明を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	プライベートな外出、特別な通院のための送迎など、本人ご家族の要望については、その都度検討し、可能な限り柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、ご家族の希望するかかりつけ医の受診、送迎支援が行なわれている。また、提携医による2週1回の往診、月1回認知症受診のほか、日常の健康相談は隣接グループ施設看護師にお願いするなど、適切な医療支援が行なわれている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	常時治療が必要になったときは、入院していただくことを原則にし、入居時説明している。利用者一人ひとりについては、申し出があった時点で、関係者で話し合い、方針を決め、全員で共有することになっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	「プライバシー・ポリシー」を決め、職員に徹底している。言葉がけや排泄支援には特に注意をはらっている。個人情報施錠できる棚に収めるほか、介護記録にイニシャルを使うなど細心の配慮を心がけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スケジュールを優先させず、体調なども配慮し、一人ひとりの気持ちを大切にしている。出来るだけ、本人がどうしたいかを聞き、自分で決めてもらいながら、その人らしく暮らせるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は、食事を一緒に取りながら、何気ない介助がなされている。出来る人には、皮むき、味見など簡単な調理、配膳などの準備や片付けなど、一緒にやっってもらっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	出来るだけ、毎日入浴してもらうよう準備し、声かけをしている。就寝前を除いて、おおよそ希望する時間に入浴してもらっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の出来ること、簡単な調理、配膳や食器洗い、洗濯物干し、たたみ、楽しみごとでは歌、手芸、外出や月行事など、それぞれ利用者の力に応じて、役割や気晴らしができるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	出来るだけ、ホーム内に引きこもった生活にならぬよう、日常的な散歩のほか、近くのコンビニへの買い物、敷地内他施設訪問、戸外でのおやつ、特別外出(りんご狩り、猿回し劇場)など出来るだけ外出機会を増やすよう心がけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかける弊害は理解されており、日中玄関も居間も施錠されていない。事業所が地域によく知られてきており、ご近所に見守りられてもいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	グループ内に防火災管理委員会を設置しており、消防署の指導の下で、毎年避難訓練を実施している。運営推進会議で、災害発生時の救助支援体制づくりをお願いすると共に、ホーム勉強会も行なっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	昼食は外部委託、朝夕は栄養バランスを考え、職員が交代で献立を決め、調理している。食事量、水分摂取量は大まかに把握し記録されている。能力に応じ、おかゆ、刻み、ミキサー食対応もなされている。また、水分摂取の少ない人には、ジュースなどお好みのもので補充している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	対面式の台所とダイニングルームは程よい広さで明るく、食事と団欒に使われている。和室には炬燵もあり家庭的でなじみやすい。季節の飾り、利用者の作品がかけられ、窓からは、のどかな田園風景も眺められなど、全体として居心地よく過ごせる共有空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者にとって使い慣れた家具や生活用品が持ち込まれている。壁や棚には、本人お気に入りの作品を飾りつけるなど、利用者が心地よく過ごせるスペースとなっている。		

NPOインタッチサービス広島

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I 理念の基づく運営				
1 理念の共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	「ひだまりのような暖かさと、ほのぼのとしたやさしさ溢れる空間作りを目指します」という理念を掲げて毎日取り組んでいる	○	地域の人とのふれあいを大切に気軽に入力できる空間でもありたいと考えています
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	居間の壁に理念を見えやすく掲示し行動に移している	○	申し送り時、理念の唱和をしていきたい
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	2ヶ月に1回運営推進会議を開催 又、新聞を発行し送付している		
2 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	散歩時、挨拶をしたり「笑顔くい 秋祭り」を開催して気軽に来ていただいている		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地元のボランティアの人や保育所の園児とふれあいを通し、交流を深めている	○	今後、保育所や小学校の運動会に参加したいと考えている

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	現時点では、当事業所があることで地域の人が介護が必要な時に相談に来られているが職員全体では話し合えていない		
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	全職員1人1人で評価をしているが具体的な改善には至っていない	○	外部評価を受けて、出来ていない点は反省し出来ている所は続けて自信に繋げたい
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	参加者1人ずつからもらった意見が別々の視点からで今後の活動のヒントになっている	○	いただいた意見をサービス向上に活かしていきたい
9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	市町とよりよい関係を結びたいと思っているが出かけていく事が出来ていなかった	○	機会を作って連携していきたい
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	入居後1人利用されている 職員全員がきちんと理解できているとは言えない		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待はあってはいけないことと理解し、毎日の業務にあたっている		
4 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	十分説明できるよう時間を取っている		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	機会を見つけて気持ちを伺っている		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	事業所の様子は新聞発行でお知らせしている 各々の健康状態に関しては随時電話やメールで連絡している	○	新聞を定期的にして報告をしていきたい
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見箱の設置 重要事項説明書に苦情受付の記入をしている	○	電話やメールで寄せられたものについても記録に残して、職員で話し合い今後に活かしたい
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月、職員会議を開催して意見を聞くようにしている	○	職員の意見を出来るだけ多く聞き、運営に活かしたい

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	緊急の場合、職員の勤務の延長で対応している		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員の異動は最小限にとどめ、顔なじみの職員がいつも介護できるようにしている	○	これからも異動は最小限にしていきたい
5 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	近隣の研修会に自費参加している	○	研修会の情報を知り機会を増やしたい
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	現時点では出来ていない	○	定期的に勉強会を開催していきたい
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	出来ていない		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	出来ていない		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	面接時じっくりと話を伺っている		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	契約時に希望や不安、本人や家族の困っている事をうかがっている		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人・家族の求めているものが当事業所の内容とかけ離れたものであれば他の利用も考え話し合っている		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になら馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	たびたび遊びに来てもらい、徐々に慣れてもらいたいのが現状では見学後に入居のことが多い	○	馴染めるような工夫をしながらの利用開始をしていきたい
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人としてのふれあいを大切に、色々なことを教えてもらったり、一緒に喜んだり又悲しみを受け止めあったりしている	○	共に生きる立場で支えあって生きたい

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	職員はグループホームでの生活の様子など話しながら家族と共に本人の気持ちを支えている		
29	○本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	面会時、家族とゆっくり話ができるように配慮している		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの人にはグループホームへ遊びに来ていただくよう声かけをしている		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者さん同士で楽しめることを声掛けしながら行っている		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	入院・他の施設に変わられた当面は面会に行っている		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	希望や意向の把握が出来るよう気持ちやそぶりを大切にかかわっている	○	本人の暮らし方の希望に添えるよう努力したい

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人・家族から話を伺っているが把握しきれていない		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	その日の健康状態の把握・バイタルチェックや立ち振る舞いから状態・出来ること・出来ないこと・気持ちなど推し量っている		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人・家族を交えたケア会議を開催していない	○	本人・家族を交えたケア会議の開催をしていきたい
37	○状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	状況に応じた見直しはしていたが、それに伴う話し合いは出来ていなかった	○	見直し時もケア会議を開催したい
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護記録を個人ごとに記入・申し送りノートと合わせ情報の共有をしている		
3 多機能性を活かした柔軟な支援				

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 の要望に応じて、事業所の多 機能性を活かした柔軟な支援 をしている。	急な外出や受診にも対応して いる	○	小規模やデイも併設している ので要望に柔軟に対応してい きたい
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に 応じて、民生委員やボラン ティア、警察、消防、文化・ 教育機関等と協力しながら 支援している。	本人の必要性から家族が遠 方の為民生委員さんとかか わっているケースがありま す		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に 応じて、地域の他のケアマ ネージャーやサービス事業 者と話し合い、他のサービス を利用するための支援をして いる。	他施設の申し込みをされて いて順番が来たのでと移居 されました		
42	○地域包括支援センター との協働 本人の意向や必要性に 応じて、権利擁護や総合 的かつ長期的なケアマネ ジメント等について、地域 包括支援センターと協働し ている。	地域包括センターと協働 できていない		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を 大切にし、納得が得られた かかりつけ医と事業所の関 係を築きながら、適切な医 療を受けられるよう支援し ている。	1月に2回の割合で往診し ていただいている	○	本人・家族が希望されるか かりつけ医への受診を支 援していきたい
44	○認知症の専門医等の受診 支援 専門医等認知症に詳しい 医師と関係築きながら、職 員が相談したり、利用者 が認知症に関する診断や 治療を受けられるよう支 援している。	つき1回の受診をしてい る	○	認知症専門医への受診のサ ポートを続けていきたい

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	グループホームに看護職員が居ない為、同施設内の看護職員に健康・医療面で相談している		
46	○早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	病院関係者と情報交換して退院が早くできるよう話し合っている		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。	家族との話し合いで、当事業所で最後を迎えたいとの希望があったが医療的な面から入院となった 方針は全員で共有していた	○	繰り返し話し合いを持ちたい
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	家族との話し合いで決まった方針については、全員で共有していた		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。	退居時、本人の情報を提供している		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	介護記録には他の方の名前は書かず、イニシャルで記入 マニュアルに沿って行っている	○	プライバシーや誇りを大切に支援していきたい

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	出来るだけ本人がどうしたいのかを聞きながら、ご自分で決めてもらえるよう支援している		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者優先で支援している	○	その日のその人のペースに合わせ、介助していきたい
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	定期的に当事業所に移動美容室を迎えたり希望される理・美容院への送迎をしている		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者の出来る皮むき・味見をしてもらったり食器洗い・お盆拭き・テーブル拭きを通して食事を一緒にする楽しみを共有していただいている	○	これからも楽しい食事が出来る支援を考えたい
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	10時・3時と希望を聞き飲み物を準備おやつも希望を聞いて提供している たばこも本人の希望の時間に吸ってもらっている		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	ポータブルトイレがあればご自分で排泄できる人は居室に行きやすいように配置している		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	毎日入浴していただけるように準備しているが本人の希望の時間が寝る前だと出来ていない	○	ポジティブな声掛けをしていきたい
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	全員、個室で必要なとき（希望時）はゆっくりと休んでいただいている		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	歌を歌いたい人や指先を使った仕事・洗濯物を干したり・たたんだり・配膳や食器洗い等、毎日楽しんで仕事（役割）をしてもらっている	○	日々の暮らし以外の楽しみも増やしていきたい
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お1人以外はお金の所持をされていない		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	近くを散歩したり、時には買い物に行っている	○	これからも続けたい
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	りんご狩りや猿回し劇場に出かけている		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご家族からは手紙は来ていてもこちらから出す支援は出来ていなかった 電話についてはかけたいときにかけていただいている		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	いつでも訪問していただけるように声掛けしている		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	どこまでが拘束に当たるのか理解できていない		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	居室と日中玄関にはかけていない	○	これからも鍵をかけないケアを行いたい
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	所在確認を行いながら安全に気をつけている		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	持ち物での危険が少なくなるよう気をつけて、収納場所を考えている		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
69	○事故防止のための取り組み 転倒, 窒息, 誤薬, 行方不明, 火災等を防ぐための知識を学び, 一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故防止の為のマニュアルがある		
70	○急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え, 全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期期に行っている。	定期的には行えていない		
71	○災害対策 火災や地震, 水害等の災害時に, 昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け, 日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	毎年避難訓練を実施している 運営会議で協力をお願いしている	○	災害に対してすぐに行動できるよう日ごろより考え, 準備していきたい
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し, 抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	リスクについての話し合いは家族と出来ていない		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め, 気付いた際には速やかに情報を共有し, 対応に結び付けている。	その日の体調の変化に気をつけて, 異変があれば受診している		
74	○服薬支援 職員は, 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用, 用法や用量について理解しており, 服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬による状態の変化があるか観察している		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	ラジオ体操や水分チェックをし少ない時にはなるべく飲んでいただけるよう飲み物の提供をしている	○	今以上に注意していきたい
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	食後はお茶を飲んでもらっている 毎食後の歯磨きは出来ないが夕食後、声掛けをし出来ない人は介助している		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	利用者1人1人の食べる分量を調整している 栄養のバランスを考えた献立 水分を取りにくい人にはジュース等、好みのもので取ってもらったり、おかゆ・刻み・ミキサー食で対応している	○	必要量を過不足なく摂取してもらいたい
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している。 (インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	玄関に手洗いをしてもらおう張り紙を張り、除菌スプレーを置き外出から帰ったら手洗い・うがいをしてもらっている		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	次の日の食材を配達してもらい冷蔵庫で保管 食器は食洗機で洗浄・乾燥している 食事ごとに調理をしている		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りが出来るように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関には、利用者さんの作品を展示 季節ごとの花を飾ったりしている		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	トイレ・浴室・台所・居間は注意しカーテンを 閉めたりしている 居間の壁に写真や季節の絵を飾っている	○	居間の飾り付けに工夫をしていきたい
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングには、気のあった人が集えるよう席を 置いたり、畳にはコタツ・ソファを置いて1 人でもくつろげる工夫をしている		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れた箆笥・冷蔵庫等、本人や家族と相談 しながら配置し、壁や棚などに本人の作品を飾 っている	○	本人の気持ちを大切に充実させたい
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	換気をこまめにし、気になる臭いがあれば消臭 スプレーを使用したり、室温も調整している		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	必要な人には1人でいけるように配慮し、ポー タブルトイレをベット脇に置いている		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	居室がわかるように戸口に絵やドアに名前を大きく書いたり、写真を貼ったりしている		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	建物の裏で野菜作り、玄関前で花を植えて楽しんでもらっている	○	野菜や花以外にも出来る事があるか話し合 っていきたい

V サービスの成果に関する項目

88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者の <input checked="" type="radio"/> ② 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> ④ ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	<input checked="" type="radio"/> ① 毎日ある <input type="radio"/> ② 数日に1回程度ある <input type="radio"/> ③ たまにある <input type="radio"/> ④ ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	<input checked="" type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ② 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ ほとんど掴んでいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。	<input checked="" type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ② 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ ほとんど掴んでいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> ② 利用者の2/3くらいが <input checked="" type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ ほとんど掴んでいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	<input checked="" type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ② 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ ほとんど掴んでいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	<input checked="" type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ② 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ ほとんど掴んでいない

95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	① ② ③ ④	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	① ② ③ ④	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	① ② ③ ④	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き生きと働いている。	① ② ③ ④	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	① ② ③ ④	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんど掴んでいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	① ② ③ ④	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいの 家族等の1/3くらいの ほとんどできていない

※ は、外部評価との共通項目

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
--	-----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

I 理念の基づく運営

1 理念の共有

1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	「ひだまりのような暖かさとのぼのぼのとしたやさしさ溢れる空間づくりを目指します」という理念を掲げて毎日業務に励んでいる	○	今後もこの理念を掲げて毎日の介護を行いながら地域の人にもアピールしていきたい
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	居心地の良い場所になるよう職員で協力・工夫をしている	○	朝礼で理念の唱和をしていきたい
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	2か月に1回運営推進会議を開催 又、新聞を発行し送付している	○	新聞の発行を定期的に行ってほしい

2 地域との支えあい

4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	近くのコンビニによく行ったり、犬の散歩の人や田んぼに出られている人と挨拶や話をしている	○	人と人のつながりを大切につきあっていきたい
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	園児の訪問、コーラスの人の訪問など 又、当施設での秋祭りに町内より多くの人が参加して下さっています。又、初詣・うっしし祭りなどに出向いて交流している	○	もっと地域にへ出て行ったり、保育所・小学校の運動会へも参加したい

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいき たい内容 (すでに取り組んで いることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	現時点では当事業所がある事で地域の人が、介護が必要な時に相談に来られてサービスを提供している		事業所として地域に役に立つ事があれば積極的に参加して行きたい
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	冷静に振り返ってみる事で反省点を見つけ、良い所も見つけ明日につなげている	○	外部評価を受けて、出来ていない点は反省し出来ている所は続けて自信につなげたい
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	参加者1人づつからもらった意見が別々の視点からで今後の活動のヒントになっている	○	今後も意見をもらいサービスの質の向上につなげたい
9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	市町とより良い関係を結びたいと思っているが出かけて行く事がなかった	○	機会を作って連携していきたい
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	当グループホームでも入居後お一人、成年後見制度を利用されています 職員全員がきちんと理解しているとはいえない		必要があれば勧めていきたい
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	介護のプロとして虐待防止を心掛けて業務にあたっている		人として当たり前の事、自分に置き換えてみて、どんな小さな事でも見過ごさず未然に防ぎたい
4 理念を実践するための体制				

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいき たい内容 (すでに取り組んで いることも含む)
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	十分説明出来るよう時間を取っている		不安・疑問点を聞いて適切に答えていきたい
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	機会を見つけて気持ちを伺っている	○	モニタリングの徹底を心がける
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	事業所の様子は新聞の発行でお知らせしている 各々の健康状態に関しては、随時電話やメールで連絡している	○	続けていきたい
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見箱を設置したり重要事項説明書に苦情受付の記入をしている	○	電話やメールで寄せられたものについても記録に残して職員で話し合い、今後に活かしたい
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月、職員会議を開催し意見を聞く機会を設けている		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	緊急の場合、職員の勤務の延長で対応している		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員の異動は最小限にとどめ、顔なじみの職員がいつも介護出来るようにしている	○	これからも異動は最小限にとどめたいと思っている

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
--	-----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

5 人材の育成と支援

19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	ステップアップの為、近隣の研修会に参加している	○	研修会の情報を知り、研修の機会を増やしていきたい
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	現時点では出来ていない	○	勉強会の開催を定期的に来れるよう働き掛けたい
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。			ストレス軽減するために何が出来るか話し合いを持ちたい

22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	出来ていない		
----	--	--------	--	--

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	面接時に時間をかけてじっくりと話を聞いている	○	色々な気持ちを受け止め、安心して頂けるように取り組んでいきたい
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	契約前後にお話を聞き、不安・希望を伺っている		家族の視点に立ち受け止めていきたい

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいき たい内容 (すでに取り組んで いることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要として いる支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人・家族が求めているが当事業所の内容と かけ離れたものであれば他利用も考え話し合 っている	○	必要なサービスが受けられるよう見極め ていきたい
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サー ビスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰 囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	申込者に遊びに来てもらいながら入居してもら いたいが、見学後すぐの入居者が多い	○	本人の気持ちを考え徐々に行っていき たい
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過 ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を 築いている	人生の先輩なので、色々教えてもらったり楽 しみを持ちながらふれあい・笑い合い・毎日を過 ごし、出来るところは、身体を動かして協働し ている	○	人生を共に生きている立場で、人として のふれあいを大切に関係を築いていき たい
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共 にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	一緒に支えていけるよう面会時に話をしている	○	「預けっぱなしで、すいません」と思われ ている家族に少しでも安心してもらえ るよう連絡を取りたい
29	○本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が 築いていけるように支援している。	家族の面会は本人の心の支え必要不可欠とされ ている事を伝え支援しています		本人・家族とも心の支えで在り続けら れるよう支援をしていきたい
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途 切れないよう、支援に努めている。	今まで大切にされていた人や場所の把握が出来 ていない		入居前情報の収集に努めたい
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同 士が関わり合い、支え合えるように努めている。	仲の良い人はもちろん、隣にたまたま座った人 とも話せるような関わりを支え合えるよう支援 している	○	孤立しがちな人には職員が寄り添い不安が 募らないようにしていきたい

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいき たい内容 (すでに取り組ん でいることも含 む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	今までにサービス利用終了して尚必要とされた		仮に終了後でも必要とされるケースには関わっていきたい
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	希望や意向の把握が出来るよう気持ちを大切に言葉やそぶりに注意をしている	○	本人の暮らし方の希望に添えるよう努力したい
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前情報が記録されていない人がある	○	全員の入居前情報をもらえるようにしたい
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	その日のその人の状態・出来る事・出来ないことなど全般の把握をしている	○	その日の状態に応じた心と身体の把握に努めたい
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人・家族を含めたケア会議が行われていない	○	本人・家族を交えたケア会議を開催して行きたい
37	○状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	状況に即した見直しはしてきたがそれに伴う話し合いは出来ていない	○	必要に応じて見直し時もケア会議が開けるようにしたい

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいき たい内容 (すでに取り組んで いることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	気づきの記録が出来ていない	○	個別の気づきの記録を記入していきたい
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	急な外出や受診にも対応している	○	デイケアや小規模も併設なので要望に柔軟に答えたい
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	運営推進会議・包括支援センターなどと連携をとり、		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	ご本人の必要性やご家族の要望を他のケアマネージャーに相談し、アドバイスをいただいている		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	成年後見制度を活用するために包括支援センターの方や保健師に相談・アドバイス・手続きなどに協力していただいた		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	かかりつけ医には2週間に1回の割合で往診してもらいその他には月1回以上受診している	○	これからも継続したい 又、家族が可能なら家族との時間も持てるので通院介助もお願いしたい

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	月1回専門医受診している 受診の時、本人も職員もドクターに相談している	○	専門医との関係を深めて利用者の為になるよう支援していきたい
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	現在グループホーム内に看護師がいないが同じ施設内の小規模の看護師に助言してもらっている	○	地域の保健師に訪問してもらい相談していきたい
46	○早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	病院と情報交換をして早く退院出来るよう話し合っている	○	入院時病院と情報交換を蜜に取りたい
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。	家族との話し合いで当事業所で最後を迎えたいとの希望があったが医療的な面から入院となった 方針は全員で共有していた	○	繰り返し話し合いを持ちたい
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	事業所としてどうしていくかを検討できていない	○	今後年齢が加算されるので準備していきたい
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。	退居時、本人が安心して暮らせるよう情報を提供している		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1 その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいき たい内容 (すでに取り組んで いることも含む)
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	プライバシーを大切に超えかけ介助を行っている 介護記録には本人の名前以外は（他の方）イニシヤル文字で記入し記録開示の際にもを駆らないようにしている	○	今以上にプライバシーや誇りを大切に接していききたい
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	なるべく理解しやすい言葉掛けや援助をし利用者の意思を尊重した支援をしている	○	もっと気楽に言える雰囲気を作っていきたい
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	1人先に食べられると他の人が食べているのを見て、「自分はたべてない」といわれる。なるべく一緒に食べられるよう配慮していた	○	その人のペースに合わせた介助をしていききたい
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	月2回訪問美容室が来られている。 行きたいお店に送迎したり、理容店をされている家族は来られてされる	○	おしゃれを楽しんでもらえるよう服装も援助していききたい
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事が楽しくなるよう、準備の手伝い・配膳やテーブル拭きをしてもらったり片付けも自然にされている	○	今までされていなかった人にも声掛けし参加してもらえるよう支援していききたい
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	好みに合わせた飲み物を提供 又、飲みたいときにはいつでも飲んでいただいている	○	今までお酒の提供はなかったが希望があれば、居酒屋の開催も時にはしてみたい

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	トイレで排泄が出来るよう声掛けや誘導をしている	○	オムツ内への排泄が少なくなるように努力したい
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	出来るだけ毎日入浴して頂けるよう準備・声掛けしている 毎日、お風呂を準備しているが寝る前の時間帯は出来ていない	○	気持ちよく入浴して頂けるポジティブな声掛けをしていきたい
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	朝が苦手な人はゆっくり休んでいただき、ウトウトされている人には、いつでも横になって頂ける支援をしている	○	ゆったりとしたペースの介護で安眠してもらい状況に応じた休息を取れる支援をしていきたい
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	食事の支度・洗濯物を干したり取り込みやたたむなど、自然にしている。歌を歌いたい人・散歩をしたい人などその人に合わせしえんしている	○	「たいぎいので何もしたくない」と言う人にも楽しんでもらえる事も増やしたい
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金はほとんどの方が所持されていない		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	散歩や近くのコンビニへ行ったりしている	○	冬以外の季節はほとんど毎日のように散歩をしているので続けたい

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	猿回し劇場に行きたい人は少人数でも参加してもらった		もっと、行きたい時・行きたい場所へ行けるよう支援したい
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	定期的に電話されている娘さんがあり喜ばれている		電話がかけたいときはして頂き、年賀状も書いて頂けるよう支援したい
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族と居室でお話される時、お茶など差し入れゆっくりして頂けるよう工夫をしている		どなたでも気楽に着ていただけるようにしたい
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	どこまでが拘束になるか理解できていない	○	禁止の対象となる具体的な行為の正しい認識とケアの実践をしていきたい
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	居室はもちろん、日中玄関には、鍵はかけていない	○	職員が手薄の時ベランダ側の出入り口の鍵は、転倒防止でしていたが検討したい
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	常に所在確認をしている	○	所在確認をし、安全の配慮をしていきたい

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいき たい内容 (すでに取り組んで いることも含む)
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	間違っ て飲み込んでしまうようなものは、家族と話し合っ て、持って帰っていただいている		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故防止に何が 必要かマニュアルがある	○	マニアルに沿った学習を勧めたい
70	○急変や事故発生 の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期期に行っている。	定期的に応急手 当の訓練が出来ていない	○	定期的に行いたい
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年2回の避難訓 練を実施している 運営推進会議で協力を お願いしている	○	車椅子・移動の人の停電時の避難について訓練を重ねたい
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切に した対応策を話し合っている。	リスクについて の話し合いは家族と出来ていない		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	1人1人の体調変化に気を配り、何かあるときには複数で確認し、受診が必要な時は速やかに対応している	○	今以上に体調の変化に気を配りたい

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個人ファイルに処方箋をファイルし、必要時見ている 症状の変化に気を配っている	○	薬についての理解を深めたい
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	バナナ・ヨーグルト・野菜・水分の摂取・運動の声掛けをしている 毎朝、ラジオ体操をしている	○	水分の摂取と運動を増やしていきたい
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	夕食後には口腔ケアの声かけ ご自分で出来ない人は職員が行っている	○	全員は出来ていないので、なるべく全員できるようにしていきたい
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	介護記録に水分量・食事慮の記入をしている 少ない時は声かけをし水分補給に努めている 又、おかゆ・刻み・ミキサー食で対応している	○	必要量、過不足なく摂取してもらえるよう支援したい
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している。 (インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルにしたがっている 外出から帰ったら、手洗い・うがいをしていただいている 食事・おやつ前は手指の消毒をしていただいている	○	手洗い・うがい・手指の消毒は続けていきたい
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	新鮮な食材を毎日配達してもらい、安全に取り扱い、調理用具も小まめに洗い使用している	○	今以上に食材の取り扱いに注意し、安全に調理・提供していきたい
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りが出来るように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関には利用者の作品など飾り、和やかな雰囲気作りにつけている	○	和やかな雰囲気作りを気に配りたい
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	壁飾りで季節感を出し、不快な光が目にあたらないようカーテンを使用している	○	壁飾りをもう少し工夫していきたい
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	利用者さん同士お互いの居室を行ったり来たり気軽に話をされている	○	リビングのこたつやソファの利用もしやすいよう工夫したい
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用者さんのお気に入りの身の回りの物を持ってきてもらい居室において、気持ちよく過ごしていただいている	○	本人・家族と相談し、居室の充実をするため、私物を増やして行きたい
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	毎日、換気し室内温度に気を配っている	○	このまま、臭いや温度に気を付けていきたい
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	廊下・トイレ・階段には手すりを設置 押し車の必要な人は押し車をしようしてもらい、立ち上がり際には職員が傍で転倒のないように見守りをしている		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	居室に名前を書いたり、人形を目印につけたり、夜はトイレがわかりやすいよう明るくし工夫をしている	○	もう少し、判りやすくするためにはどうしたらよいか、考えていきたい
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	ベランダで外の空気を吸ったり、洗濯干しを楽しんだりされている	○	2階生活なので、野菜づくり・花づくりにたびたび参加していきたい

V サービスの成果に関する項目

88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者の <input checked="" type="radio"/> ② 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> ④ ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	<input checked="" type="radio"/> ① 毎日ある <input type="radio"/> ② 数日に1回程度ある <input type="radio"/> ③ たまにある <input type="radio"/> ④ ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	<input checked="" type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ② 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ ほとんど掴んでいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> ② 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ ほとんど掴んでいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> ② 利用者の2/3くらいが <input checked="" type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ ほとんど掴んでいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	<input checked="" type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ② 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ ほとんど掴んでいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	<input checked="" type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ② 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ ほとんど掴んでいない

95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	<input type="radio"/> ① <input checked="" type="radio"/> ② <input type="radio"/> ③ <input type="radio"/> ④	① ほぼ全ての家族と ② 家族の2/3くらいと ③ 家族の1/3くらいと ④ ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	<input type="radio"/> ① <input type="radio"/> ② <input checked="" type="radio"/> ③ <input type="radio"/> ④	① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<input type="radio"/> ① <input checked="" type="radio"/> ② <input type="radio"/> ③ <input type="radio"/> ④	① 大いに増えている ② 少しずつ増えている ③ あまり増えていない ④ 全くいない
98	職員は、生き生きと働いている。	<input type="radio"/> ① <input checked="" type="radio"/> ② <input type="radio"/> ③ <input type="radio"/> ④	① ほぼ全ての職員が ② 職員の2/3くらいが ③ 職員の1/3くらいが ④ ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> ① <input checked="" type="radio"/> ② <input type="radio"/> ③ <input type="radio"/> ④	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input checked="" type="radio"/> ① <input type="radio"/> ② <input type="radio"/> ③ <input type="radio"/> ④	① ほぼ全ての家族等が ② 家族等の2/3くらいの ③ 家族等の1/3くらいの ④ ほとんどできていない

※ は、外部評価との共通項目